

Topics ■トピックス [学内情報]

◎関西大学創立130周年記念事業

日本・オーストリア両国公演「豊臣期大坂図屏風コンサート」 一つの屏風が日本とオーストリアの歴史と音楽をつなぐ



綴帳をバックに演奏するグラーツ・フェスティバルストリングスと鶴澤清氏(三味線)



▲グラーツ・フェスティバルストリングス、関西大学交響楽団、混声合唱団ひびき、グリークラブによる共演

8月9日、関西大学は、創立130周年記念事業の一環として、日本・オーストリア両国公演「豊臣期大坂図屏風コンサート」をフェスティバルホール(大阪市北区)にて開催した。

このコンサートは、これまで関西大学が共同研究を進めてきた「豊臣期大坂図屏風」の縁に基づき、大阪およびオーストリア・グラーツの両都市においてクラシックコンサートを開催するというもので、8月1日、グラーツの世界遺産エッゲンベルク城で行われた公演に続いての開催となった。

当日は、「豊臣期大坂図屏風」に関するセミナーや、グラーツの弦楽団グラーツ・フェスティバルストリングスによる大坂図屏風をテーマにした新作の初演に加え、スウェーデン出身のジョン・スヴィングハンマー氏の指揮のもと、関西大学交響楽団、関西大学グリークラブ、関西大学混声合唱団ひびきとグラーツ・フェスティバルストリングスが共演。ドヴォルザークの交響曲第6番をはじめとする素晴らしい演奏に、集まった約2,000人の来場者は皆うっとりとして聴き入っていた。

◎なにわ大阪研究センター開設記念シンポジウムを開催

新拠点から 魅力あふれる大阪の文化を発信



7月16日、関西大学は、今年4月に設置した大阪文化の新拠点「なにわ大阪研究センター」の開設記念シンポジウムを千里山キャンパス・100周年記念会館にて開催した。

当日は2部構成で、第1部では講師の旭堂南海師が講演「関西大学物語」を披露した。この演目は、本シンポジウムのために制作されたオリジナルで、関西大学の歴史がテーマ。約300人の来場者は時折声を出して笑いながら、熱心に耳を傾けていた。



旭堂 南海師

続く第2部では、公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長を務める堀井良殿氏による基調講演「なにわ大阪再発見」が行われ、大阪が誇る文化の魅力について語られた。また、住吉大社や大阪天満宮の宮司らを交えた「なにわ大阪研究センターへの期待」をテーマとするパネルディスカッションも実施され、今後の本センターにおける研究の方向性や社会貢献の在り方などについて、活発な意見交換が行われた。



「なにわ大阪研究センターへの期待」をテーマに実施されたパネルディスカッション

▲公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長、堀井良殿氏による基調講演の様子

◎アイスアリーナ創設10周年記念エキシビジョンを開催

アイスホッケー部とトップスケーターらが氷上で魅せる



アイスホッケーエキシビジョンマッチ

関西大学では7月10日、創立130周年記念事業の一環として、高槻キャンパスの関西大学たかつきアイスアリーナ(旧称: 関西大学アイスアリーナ)において、「アイスアリーナ創設10周年記念エキシビジョン」を開催した。

本アイスアリーナは2006年、日本の大学では初となる国際競技規格を満たすスケートリンクとして誕生。以来、本学学生の正課授業や課外活動の拠点になるとともに、高槻市主催のイベントや近隣の小・中・高等学校及び他大学に対しても開放するなど、地域と共に歴史の歩を進めてきた。

エキシビジョンは、本学と関西学院大学の体育会アイスホッケー部によるエキシビジョンマッチで開演。駆けつけた約450人の一般市民や学生達は、目で繰り広げられる迫力満点の試合に目を奪われ、選手同士の激しい衝突音やシュートのスピードに歓



宮原知子さん



本田真凜さん

声を上げた。続くフィギュアスケートエキシビジョンでは、ジュニア・トップスケーター総勢23人が華麗なショーを披露。2016年世界ジュニア選手権大会優勝の本田真凜さん(関西大学中等部3年生)や2016年世界ジュニア選手権大会出場の中村優さん(政策2)、全日本選手権2連覇中の宮原知子さん(文1)らの美しい演技に、観客は酔いしれた。

◎本学現役学生がリオデジャネイロ五輪日本代表に

高野芹奈さんがセーリング競技で五輪初出場



8月12日から行われたリオデジャネイロ五輪セーリング競技のスキフ49erFX級に、体育会ヨット部の高野芹奈さん(人1)がセーリング史上最年少で出場し、健闘を見せた。

高野さんは、関西大学第一中学校3年生から競技を始め、2014年の仁川アジア大会で4位入賞、15年の世界選手権で3位入賞と飛躍的な成長を見せてきた。今年3月にアラブ首長国連邦で開催



写真提供: (公財)日本セーリング連盟

されたアジア選手権大会には、11歳離れた宮川恵子さん(和歌山セーリングクラブ)とペアで出場。年齢差を感じさせない息の合った操船で見事、優勝を果たし、リオ五輪への切符を手に入れた。6月29日に千里山キャンパスで行われた壮行会では、集まった学生や教職員ら約250人から熱いエールが送られた。「海上のF1」と呼ばれるほど激しい競技にもかかわらず、わずか3年4カ月という最短の競技歴で五輪出場を叶えた高野さん。今後の活躍にさらなる期待が寄せられる。